

様式(細則 6-2)

7年 6月 6日

浜田市議会議長 様

議員名

牛 尾 昭

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名

「地方からの政策サイクル」と成熟度モデル, 議会のDX

2. 受講の目的 (市政との関連など)

議員研修の参考のため。

3. 期間 (移動日を含む)

令和 7年 5月 4日 (土) ~ 令和 年 月 日 ()

4. 経費

11000-

円

(経費内訳 受講料

円、旅費

円)

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

地域経済の達人をめぐすため。

6. 研修内容

(詳細は別紙のとおり)



第3ステージ：

オンライン研修会「地方からの政策サイクル」と成熟度モデル、議会DXのミライ

主催・（公財）日本生産性本部

令和7年5月24日、13時～17時30分

「第一部」報告会、（実践報告）

松崎新：会津若松市議会議員

「第二部」セミナー、（講演）

江藤俊明：大正大学地域創生学部教授

河村和徳：拓殖大学政経学部教授

（実践報告）

岩崎広宣：取手市情報管理課長

（パネルディスカッション）

パネリスト：江藤、河村、松崎、岩崎氏

コーディネーター

千葉茂明：日本生産性本部上席研究員

実践報告「成熟度評価モデル実相化の到達点と展望」

松崎新：議会改革の第一ステージ、「議会の可視化」

情報公開による「開かれた議会」への転換

第二ステージ：政策提言の強化

第三ステージ：(現在の課題)

＊地域経営の担い手としての進化

＊議員が自治体の将来ビジョン策定・戦略推進に関与

＊市民・大学・企業との共創を主導

＊「自治の学校」として議会が人材育成やイノベーションの
拠点になる。＊第三ステージの在るべき姿

①単なる制度や運営の改善にとどまらず、地域経営を牽引人
材＝地域経営の達人を議会内から育てることが中核になる。

②これからの議会改革は、「制度」から「人」へ地域を動か
すリーダーをどう育て・活かす力が問われている。

江藤俊明氏：①議会は、機関として作動する②議会は、住民
の声を常に意識している。③政策サイクルを大事にしている。

(基本条例を含み込んでいる)④総合政策の改定作業―代案
を示す⑤決算に向けて6月から動き出す

＊成熟度評価―良き政策は、良きシステムから生まれる。―
成果の検証。

成熟度評価モデル―どの様に住民に伝えるか (いなべ市)

第3ステージ：

議員間討議—デジタル

執行部との—善政競争

縮小社会—市長・議会・市民

河村和徳：議会DXとDC

DXの視点—記録を残す—未来へ残す。

*一部事務組合を中心にDXを進めると早い。

*議会の仕組みは、非効率である。

*多様な意見の吸収はデジタル

*議員定数減—部分最適は、全体不最適

*知識を得るための結節点—デジタルである。

デジタルコミュニケーションをどう残すか。

本会議のオンラインは、なぜダメなのか？意見をいう事と、議決はリアルである。

①ビジョンを示す力

地域の将来像を描き、それを市民や行政・企業と共有・実現する力。人口減少や財政制約が進む中での的確な優先順位をつける事が重要。

②市民と協力する力

第3ステージ：

市民との対話や共創を進めるファシリテーター役。住民主体の街創りを推進するには、議会自らが開かれた存在でなければなりません。

③外部と繋がる力

大学・企業・他自治体・NPOなどと連携し知見と資源を地域に取り組む力。特に地元大学生とのプロジェクトは新しい潮流です。

④データと成果に基づく判断力

感覚や慣習ではなく、エビデンスに基づく政策評価と意思決定を行う力。すなはち「地域経営の達人」

*議会におけるAI・チャット研修の意義

1、政策形成の支援：AIを活用する事で、膨大なデータの分析や市民の意見集約が効率化され、より根拠に基づいた政策立案が可能になります。

2、議会活動の効率化：議事録の自動作成や情報管理など、日常業務の効率化が期待される。

3、市民とのコミュニケーション強化：AI「チャットボット」を通じて市民からの問い合わせ対応や情報提供が迅速に

第3ステージ：

行えるようになります。

＊この様な研修を通じて、議員一人一人がA I リテラシーを高め、地域課題の解決に向けた新たなアプローチを模索する事が期待される。ー議会全体のデジタル変革ー

考察、今月中旬の議員研修会を前にして、この様な研修を受けて、改めて、議会全体のデジタル変革に弾みがつくと考え感慨深いと気づきました。以上報告します。牛尾昭。